

葵の間

葵の間は、三宝院の入り口近くにある 3 つの隣接する応接室のうち最初で最大の部屋です。入り口に最も近い部屋であるため、位が最も低くなります。下段（下層階）と呼ばれ、実際、床は他の 2 つの部屋の床よりもわずかに低くなっています。部屋の名前は、部屋の内装を成す襖に描かれた葵祭りに由来します。これらの絵画は石田幽汀(1721-1786)によるものです。現在はかなり色あせていますが、下鴨神社から上賀茂神社を経て北へ向かう皇室の使節と護衛の、荘厳でありながら活気のある行列を描いています。